

成蹊大学新聞



ホームページでも
記事を公開しております。
https://www.seikeipress.com

2023年 1月号 NO.330

73RD YEAR (Since 1950)

[2面] 特集・スポーツ

睡眠特集 箱根駅伝予選会出場 ほか

発行所 成蹊大学新聞会

(2023年1月13日発行)

SEIKI University

〒180-8633

東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

電話・FAX: 0422-37-3905

学生会館3階302号室

MAIL:seikeipress@gmail.com

Press

活気戻った樺祭華やかに

第61回樺祭が11月19日、20日に開催された。今年のテーマは「華」。飲食を伴う屋台が復活するなど樺祭に活気が戻ってきた。本記事では3年ぶりの実施となった馬術部の企画をはじめ、華やかさをもたらしたミス成蹊インタビューを通じて樺祭を振り返る。

乗馬・エサやり体験

本学北東に位置する馬場では、馬術部による乗馬体験と馬へのエサやり体験が開催。完全予約制で行われた乗馬体験は連日盛況で、エサやり体験も特に家族連れから人気のイベントとなった。子どもたちを中心に、会場は訪れた人々が馬との触れ合いを満喫する姿であふれた。

実際にエサやり体験をした参加者によると、馬場では常に馬が前脚で小屋の扉をたたく音や、いななきが響いていたという。その上「かまれないように注意」の張り紙があったことから、最初は物おじして馬と距離を取り過ぎてしまったそう。だが、ニンジン馬の口に運んでいるうちに視線が合うようになり、心を通わせた気分になったという。普段接する機会が少ない馬との交流は良い思い出になっただろう。

また、会場では使わなくなった蹄鉄の販売も実施。蹄鉄はひづめに7本の釘を使用して打ち付けるため、ラッキー7で縁起が良いと思われ、上向きに飾ると幸運がたまり、下向きに飾ると厄よけになる言い伝えがあるそう。

馬場には本学学生に限らず多くの人が足を運び、馬とのコミュニケーションを楽しんだ。3年ぶりに対面して実施された馬術部の催しは大勢からの関心を集めた。来年も開催されることを心待ちにしたい。(星野佑奈)

ハーバリウムボールペン

8号館404教室では、北川ゼミ第4班による「Atelier fleur-ハーバリウムペン」が開催。来場者はペンの中に花やビーズが入った「ハーバリウムボールペン」を作製することができた。会場内の各テーブルでは、学生同士や家族で会話をしながらペン作りを楽しむ姿が見られた。体験料金は450円。企画した学生も同じ値段で販売しており、受付横にはカラフルなボールペンが多数並んでいた。会場の様子を見学し、参加者に感想を聞いた。

まず参加者はペンの色と軸に使うパーツを選ぶ。ペン作りにおいて重要なのは透明な軸に何を入れるかだ。オリジナルカラーを出す鍵になるため、パーツ選びに時間をかける人が多かった。次に軸にオイルを注ぎ、ペンセットでパーツを入れていく。自分のイメージ通りの仕上がりするには慎重に作業を行う必要があり、苦戦する人も時折見られた。その後、担当の学生がふた閉めを行って完成。体験者は出来上がったペンを楽しそうに見せ合っていた。

体験を終えた参加者は「パーツを選ぶ工程が難しかったが、それを考えることが楽しかった」と語った。世界に一つだけのオリジナルボールペンは、きっと参加者たちの宝物になったはずだ。(三瓶純一)

宝石せっけん

北川ゼミ第2班の体験企画「宝石のせっけん屋さん」が3号館404教室で行われた。同企画では、キラキラとした見た目の「宝石せっけん」をインテリア用にカットする体験会を実施。親子連れからも人気の高かったこの企画に、実際に記者が参加した。

体験に用いるのは、学生自らが製作した円柱型で半透明のせっけん。その中から好きな色を選び、自分の好みの形にカットすることで唯一無二の作品に仕上げていく。軟らかく切りやすい反面、切り過ぎには注意が必要だ。記者は作りたい形をうまく思い描けず、作業に時間がかかった。とはいえせっけんの表面には既に模様か施されていたため、満足いく作品を作ることができた。こうした工夫からは、小さい子どもでも楽しめるものにしたという企画の背景がうかがえる。

幅広い世代に配慮した工夫で人気を集めたせっけんカット体験。製作したせっけんは自宅に飾ってあるのだが、ふと目にした時に樺祭での出来事思い出すきっかけとなってきている。(中田巨)



せっけんカット体験の様子

ポートの改善点や疑問に感じたことについて意見交換し、あらゆる角度から反省を行った。

例年、このコンテストで現代ファイナンス理論をビジネスの分野に実装することを目標にしているという永野護ゼミ。今年もコンテストと合同ゼミの活動により、目標を達成できたという。(佐藤樹)



合同ゼミの様子

2022 ミス成蹊 安藤葵咲さんにインタビュー

今年のミス成蹊に選ばれた安藤葵咲さん(総合経営2)に取材した。

——ミス成蹊コンテストに参加を決めた理由を教えてください。

大学生の間に大きなことを成し遂げたいと思い、このコンテストに参加しました。また、元々人前で話すことが苦手だったので、大きな舞台に立つ経験をしたいのも理由の一つです。

——アトラクションにてフルートで披露した『美女と野獣』の選曲理由を教えてください。

中学時代に所属していた吹奏楽部で演奏したことがあり、思い出の曲だったので第一の理由です。また、『美女と野獣』の世界観が好きなので、フルートでその雰囲気を出したいと思い選曲しました。

——ミス成蹊グランプリを獲得した時はどのような気持ちでしたか。

まずは本当に嬉しい気持ちになり、応援してくれた方々のことが頭に浮かびました。グランプリという素晴らしい賞をいただいたのは、紛れもなく周りの応援のおかげなので、感謝の気持ちでいっぱいでした。

——グランプリを取って家族からはどのような反応をされましたか。

グランプリを取った時は「おめでとう」「お疲れ様、毎日頑張ったね」と言われました。母は活動期間中の「ミクチャ」を使った配信を毎日見てくれていて、くじけそうな時にかかってき

た電話は心の支えになりました。

——今回の4カ月間の活動を通じてどのような点で成長したと感じますか。

このコンテストに出る前は本当に自信がなくて、人前に出ることが苦手でした。けれども、撮影を通じて人前に立ち、人から見られるという経験を通じて、以前より自分に自信をつけることができたと思います。

——コンテストでの「最後のスピーチ」に込めた思いを教えてください。

この4カ月間、たくさんの人に支えられてきました。大変だったこともありましたが、支えてくれた方々のおかげで楽しんでコンテストに臨むことができました。スピーチにはそんな皆さんへの感謝の気持ちがこもっています。

——これからの目標を教えてください。

私は幼少期から目指している夢があります。この活動で培った自信や人前に出たときの立ち振る舞いなどを生かして、その夢に向かって日々努力していきたいと思っています。(鈴木恭輔)



グランプリ受賞直後の安藤さん

並木道

大阪府枚方市の中学校でいじめを受けた生徒とその母親が市を相手に提訴したことが、ニュースで取り上げられた。中学生にとっては学校と家が自分の主なコミュニティだ。そのため、学校の人間関係に苦悶すると日常生活に支障が出てしまい、心の傷を負い続ける人もいる。狭いコミュニティの中で人間関係を築き、居場所を持つことは難しい▼人は年齢を重ねるとともに人間関係が広がる。大学への入学はそのきっかけだ。大学では高校までとは異なり自分で選択する授業が多いことから、学校生活における人間関係が流動的になりやすい。だが、課外活動やアルバイト、趣味を始めるなど自ら行動を起こすことにより、自分の居場所を作れる。私は実際に複数のコミュニティに飛び込んだことで、活気のある毎日を送ることができた▼居場所とはどの世代においても必要だ。以前ゼミの活動で、高齢者の健康的な生活を支援する施設を訪れた。施設の方の話によると、利用者の多くは健康維持のためだけでなく、地域の助け合いやつながりを生む交流の場を求めているという。長い人生において、居場所を持ち続けることは大切だ▼私はもうすぐ4年間過ごした大学を卒業し、人生の次のステージへ進む。今まで築いた人間関係を大切にしつつ、新しい居場所を作り、豊かな人生を歩みたい。(梶原万穂)

短信

▼公務員志望者向けの取り組み紹介

例年、本学で一定数の志望者がいる公務員。コロナ禍で安定志向が望まれるにつれて、公務員はさらに注目を集めている。今回は公務員志望者向けのイベントを企画している本学キャリア支援センターの担当者に取材した。

公務員試験は4年生の4月から12月にかけて行われ、採用が決まるのは早くてもおおよそ8月になる。3年生の6月から1年以上かけてインターシップ・選考が行われる民間就職とは、選考時期が大幅に異なる。そのため民間就職と両立するには、5社から10社程度民間企業を受け、面接の経験を積んでおくことが推奨される。早めの試験対策も、両立する上でのコツだ。

試験対策として、大学1・2年生のうちから資格取得支援予備校のオンライン基礎講座を受けることも有効だ。本学でも予備校と連携して公務員対策講座を開講しており、実際にこの講座を受講して合格した学生も多数存在する。

現在実施予定の公務員志望者向けイ

ベントは6つある。その中で担当者が特に参加を推奨するのは、2月2日に開催予定の4年生による合格者報告会だ。この報告会は勉強方法や民間就職との両立方法など、実体験に基づいた話を聞くことができる。

キャリア支援センター事務室主査の浅香啓さんは「試験勉強も重要だが、面接の話題にもつながる学生生活を充実させることも大切だ」と語る。公務員に興味のある人は、一度キャリア支援センターに足を運んでみてはいかがだろうか。(山本実玖)

▼ギターソサエティー定期演奏会

12月18日、本学ギターソサエティーによる第55回定期演奏会が行われた。この定期演奏会は毎年12月に開催しているもの。小林大祐さん(経済経営4)ら4年生の部員が今回の演奏会について話を聞いた。

演奏された全8曲のうち、特に注目したい楽曲は4年生による卒業演奏『夏色のファンシー』。苦楽を共にした仲間との目まぐるしい4年間の思い出を、場面ごとに印象の変わるこの曲になぞらえて演奏する。仲間と切磋琢磨して練習に励んだ日々や、コロナによる制限下で行った活動への思いを胸に、卒業演奏に臨んだ小林さんは語る。

同部は毎年、委嘱作品としてギター専門家に楽曲を提供してもらっている。今年は富川勝智氏の提供した『あなたは何を』を全員で合奏。楽曲は3つの楽章からなっており、コロナ禍で不自由な学生生活を余儀なくされた若者をイメージして書かれている。同部のために書かれた楽曲であるため、作曲者の思いを届けられるように演奏したそう。

最後はアンコールで『All I Want for Christmas Is You』を演奏し、観客を楽しませた。4年生にとっては集大成となる最後の演奏を終えると、会場から止まぬ喝采が送られた。小林さんは「無事に開催することができた喜びと、同じメンバーでステージに上がることが最後となってしまった寂しさを感じている」と演奏会を振り返った。(掛札若奈)



定期演奏会の様子

SATORI GROUP



Technology Solution Global

手を伸ばすと、指先に「未来」が触れた……。挑戦する楽しさを、やり遂げる喜びを分かち合いたい。

FORESIGHT

もっと先へ、もっと未来へ

会社概要
- 設立 1947年
- 資本金 26億1100万円
- 売上高(単体) 445億9300万円
- 売上高(連結) 1258億5000万円
- 株式市場 東京証券取引所プライム市場
- 事業内容 電子部品・電子機器の販売及び、これらに付帯する事業
- 子会社
佐鳥パイクス
スター・エレクトロニクス
佐鳥SPテクノロジ
台湾佐鳥
香港佐鳥
佐鳥貿易(上海)
佐鳥貿易(深圳)

佐鳥電機株式会社
http://www.satori.co.jp/
代表取締役社長執行役員 佐鳥浩之(経 済 1989年卒)

